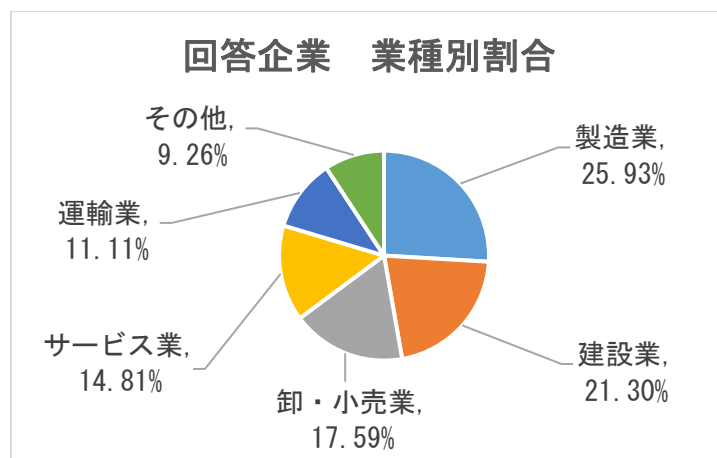


速報版

令和7年度第1四半期 石狩市内景況調査 調査結果

- 調査期間 令和7年4月～6月期の実績及び令和7年7月～9月期の見通しについて調査
- 調査方法 調査票を送付し、FAXおよびWEBにて回収
- 調査内容 ①今期の業況等の実績について
・前年同期（令和6年4月～6月）対比および前期（令和7年1月～3月）との比較
②来期の業況等の見通しについて
・前年同期（令和7年7月～9月）対比および今期（令和7年4月～6月）との比較
③今期に直面している経営上の問題点について
④自社の景況感、原材料価格高騰の影響等について（自由記述）
- 調査時期 7月1日（火）から7月18日（金）
- 調査対象 石狩市内事業所 150社
- 回収状況 108社（回答率72.0%）
（製造業 28社、建設業 23社、卸・小売業 19社、サービス業 16社、
運輸業 12社、その他 10社）



■D I 値（景況動向指数：ディフュージョン・インデックス）について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I 値＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

【仕入高、仕入単価、在庫、人手（従業員）については、下降－上昇で計算】

《 調査結果の概要 》

■業況の動向

【今期の実績】

前年同期比D I（R6.4月～6月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）は、全体で▲3.7ポイントとなった。

業種別では、製造業で▲3.6ポイント、建設業で17.4ポイント、サービス業で18.8ポイントと好転しているが、卸・小売業で▲21.1ポイント、運輸業で▲25.0ポイント、その他の業種で▲30.0ポイントと悪化している。

前期比D I（R7.1月～3月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）では、全体で▲1.9ポイントとなった。

業種別では、製造業で14.8ポイントと好転しており、建設業、卸・小売業、サービス業はいずれも0.0ポイントと横ばいの状況だが、運輸業で▲33.3ポイント、その他の業種では20.0ポイントと悪化している。

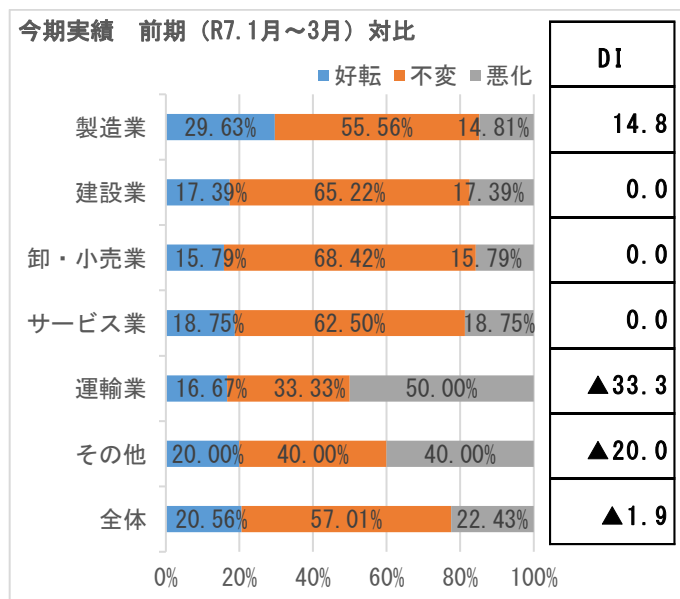
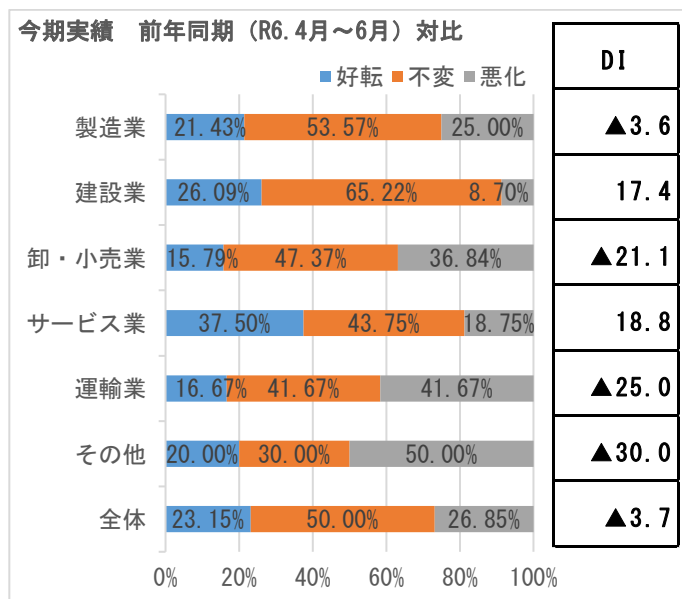
【来期の見通し】

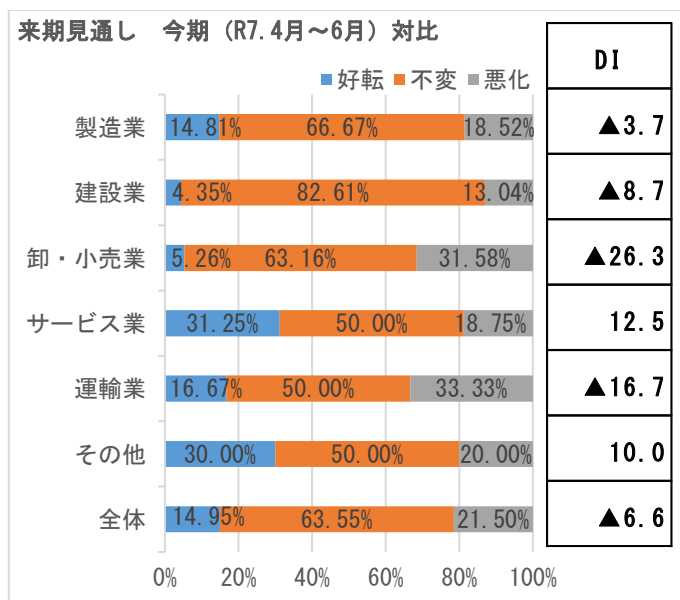
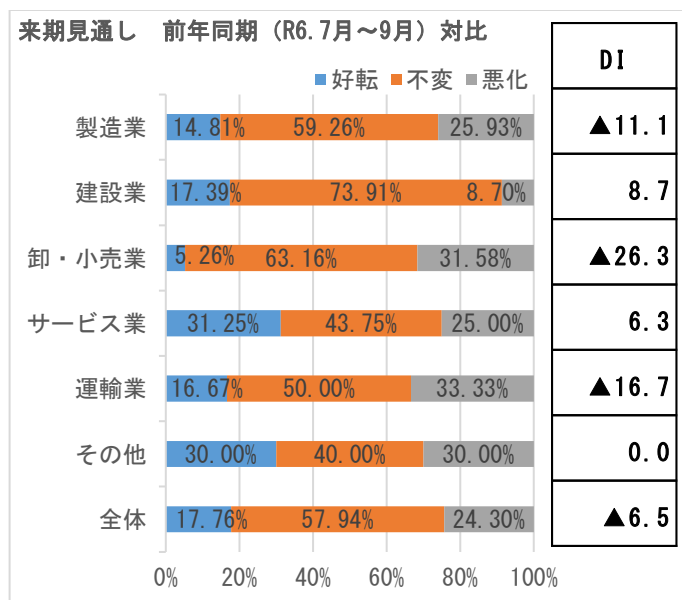
前年同期比D I（R6.7月～9月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）は、全体で▲6.5ポイントとなった。

業種別では、建設業で8.7ポイント、サービス業で6.3ポイントと好転しており、その他の業種では0.0ポイントと横ばいの状況だが、製造業で▲11.1ポイント、卸・小売業で▲26.3ポイント、運輸業で▲16.7ポイントと悪化している。

今期比D I（R7.4月～6月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）では、全体で▲6.6ポイントとなった。

業種別では、サービス業で12.5%、その他の業種で10.0%と好転したが、製造業で、▲3.7ポイント、建設業では▲8.7ポイント、卸・小売業で▲26.3ポイント、運輸業で▲16.7ポイントと悪化している。





■売上高の動向

【今期の実績】

前年同期比 D I（R6. 4 月～6 月期と比べた「増加」－「減少」の構成比）は、全体で 11.1 ポイントとなっている。

業種別では、製造業で 10.7 ポイント、建設業で 8.7 ポイント、卸・小売業で 5.3 ポイント、サービス業と運輸業では 25.0 ポイントと好転しているが、その他の業種で▲10.0 ポイントと悪化している。

前期比 D I（R7. 1 月～3 月期と比べた「増加」－「減少」の構成比）では、全体で 11.2 ポイントとなった。

業種別では、製造業で 29.6 ポイント、建設業で 8.7 ポイント、サービス業で 18.8 ポイント、運輸業で 16.7 ポイントと好転したが、卸・小売業では、▲5.3 ポイントとなっているが、その他の業種では▲20.0 ポイントと悪化している。

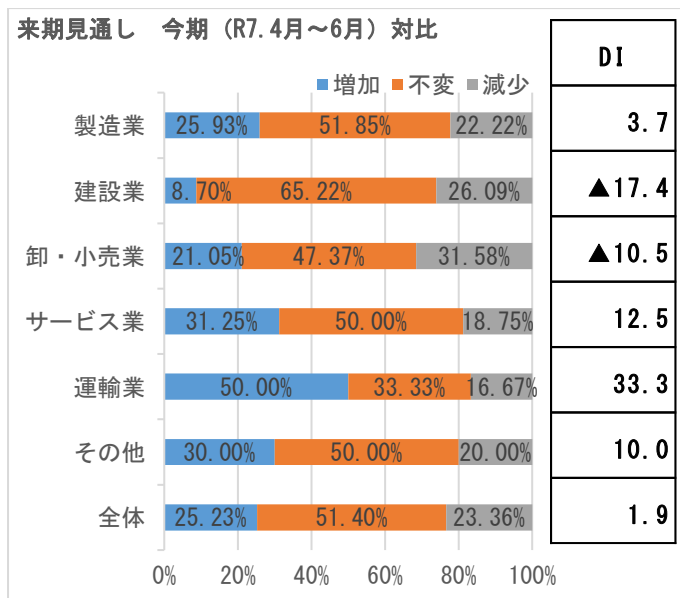
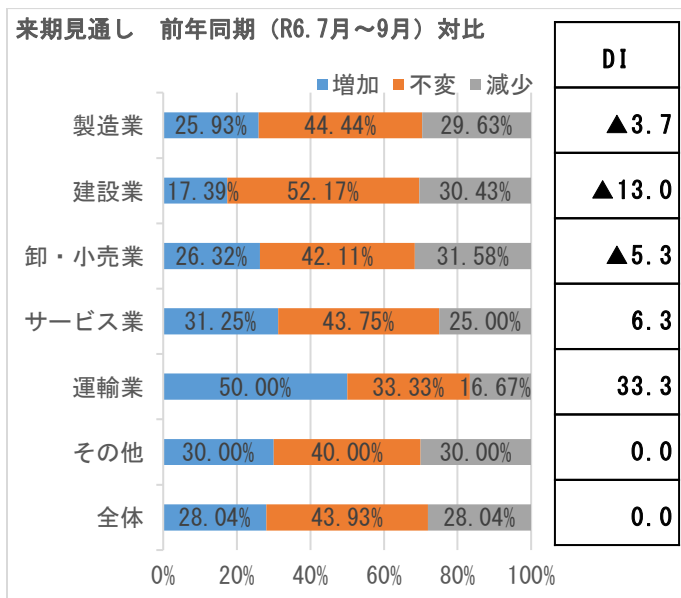
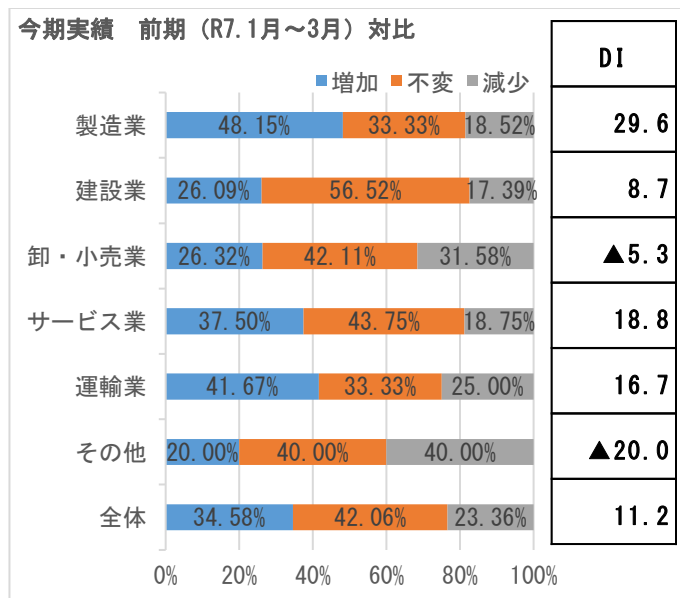
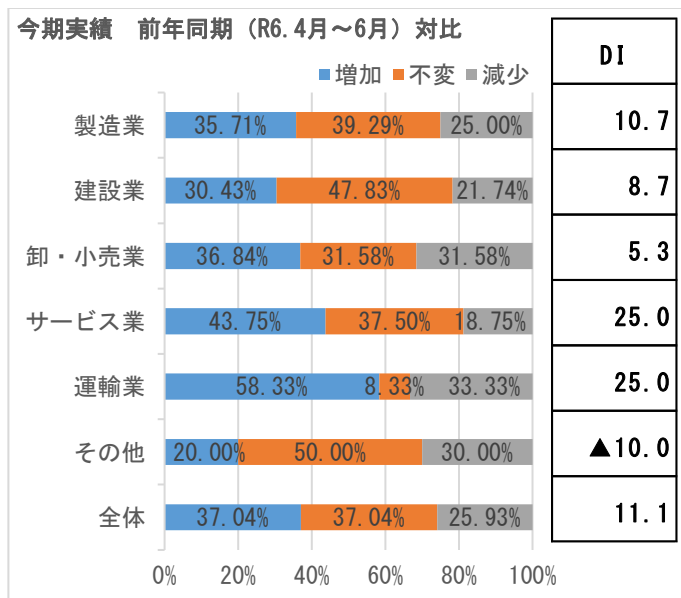
【来期の見通し】

前年同期比 D I（R6. 7 月～9 月期と比べた「増加」－「減少」の構成比）は、全体で 0.0 ポイントとなった。

業種別では、サービス業で 6.3 ポイント、運輸業で 33.3 ポイントと好転している。その他の業種で 0.0 ポイントと横ばいの状況だが、製造業で▲3.7 ポイント、建設業で▲13.0 ポイント、卸・小売業で▲5.3 ポイントと悪化している。

今期比 D I（R7. 4 月～6 月期と比べた「増加」－「減少」の構成比）では、全体で 1.9 ポイントとなった。

業種別では、製造業で 3.7 ポイント、サービス業で 12.5%、運輸業で 33.3 ポイント、その他の業種で 10.0%と好転したが、建設業では▲17.4 ポイント、卸・小売業で▲10.5 ポイントと悪化している。



■採算性の動向

【今期の実績】

前年同期比D I (R6. 4月～6月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比)は、全体で▲9.4ポイントとなった。

業種別では、製造業では3.6ポイントと好転した一方で、建設業で▲13.6ポイント、卸・小売業で▲16.7ポイント、サービス業で▲6.3ポイント、運輸業で▲8.3ポイント、その他の業種では▲30.0ポイントと悪化している。

前期比D I (R7. 1月～3月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比)では、全体で▲7.6ポイントとなった。

業種別では、運輸業が16.7ポイントと好転した。サービス業では0.0ポイントと横ばい、卸・小売業で▲5.6ポイント、建設業で▲30.4ポイント、その他の業種で▲20.0ポイントと悪化した。

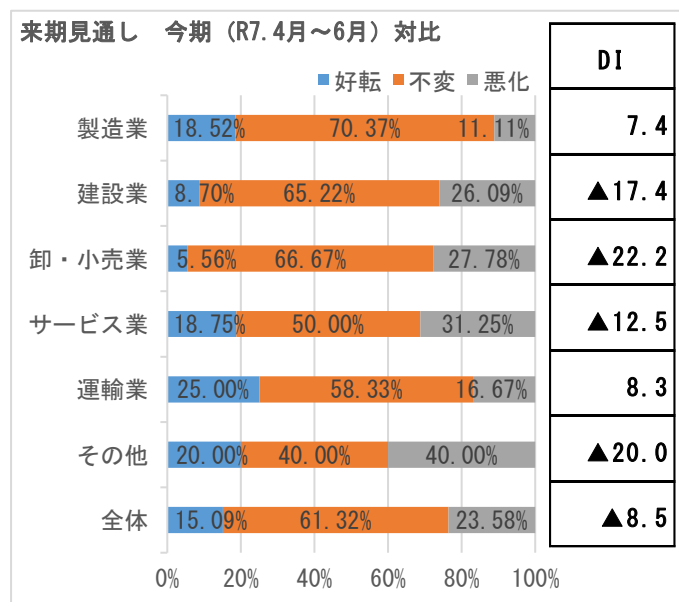
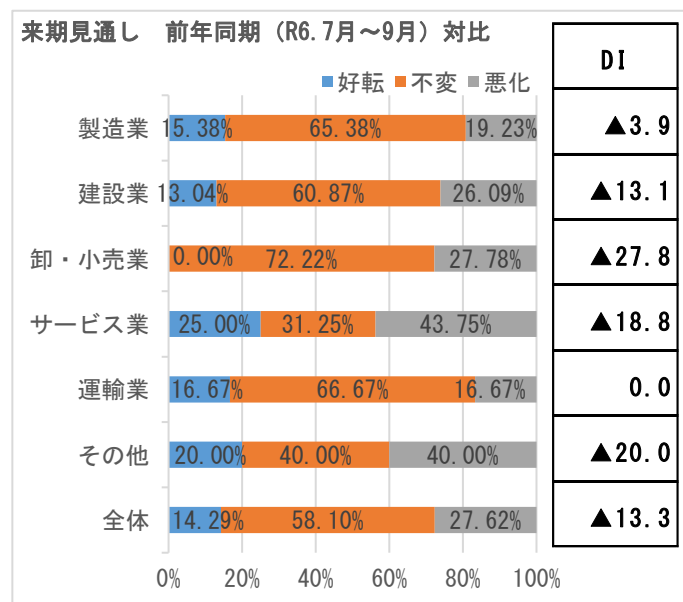
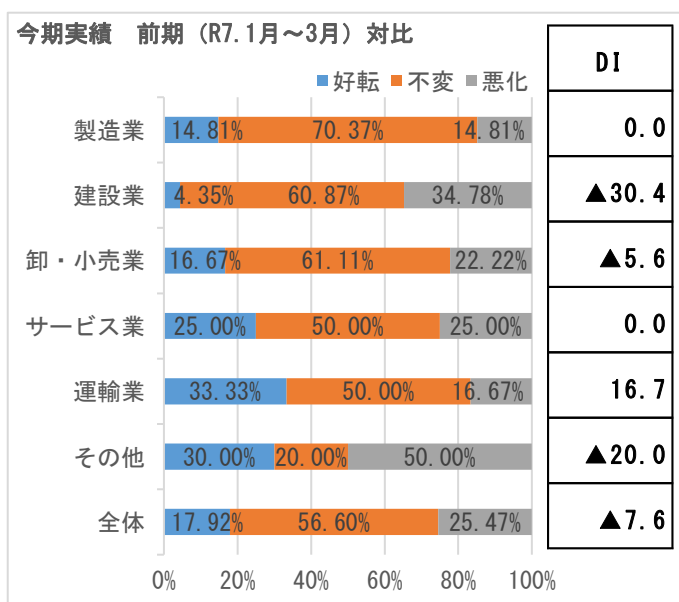
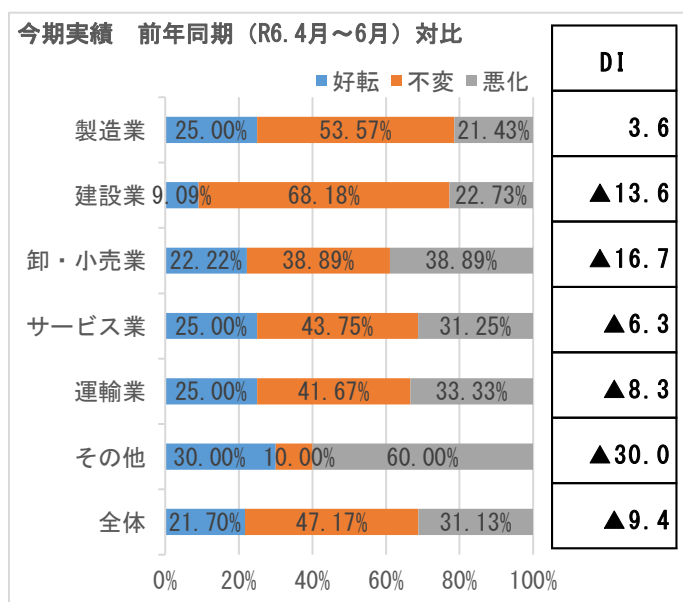
【来期の見通し】

前年同期比D I（R6.7月～9月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）は、全体で▲13.3ポイントとなった。

業種別では、運輸業が0.0ポイントと横ばいとなった一方、製造業▲3.9ポイント、建設業▲13.1ポイント、卸・小売業▲27.8ポイント、サービス業▲18.8ポイント、その他の業種▲20.0ポイントと厳しい見通しとなっている。

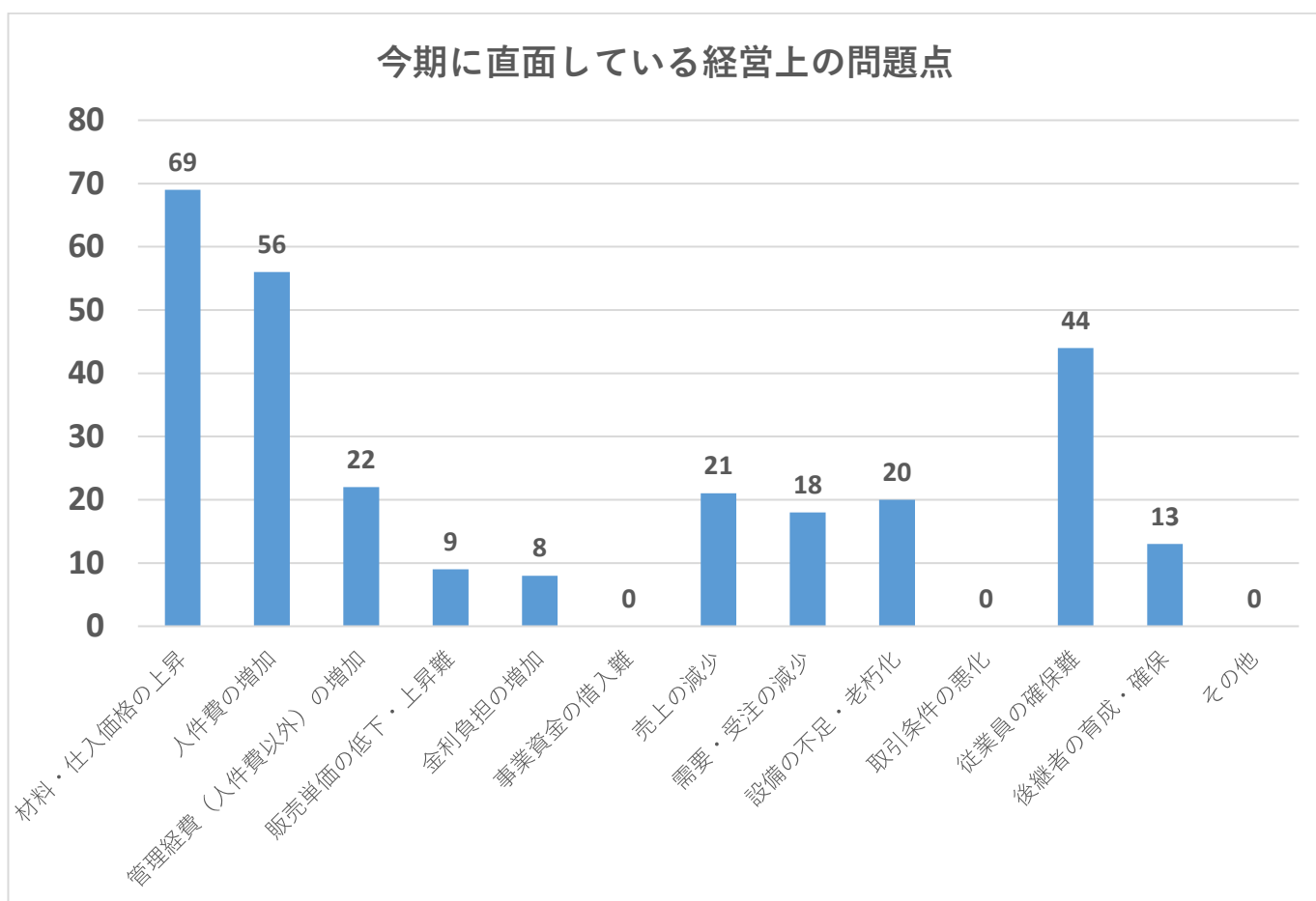
今期比D I（R7.4月～6月期と比べた「好転」－「悪化」の構成比）では、全体で▲8.5ポイントとなった。

業種別では、製造業で7.4ポイント、運輸業で8.3ポイントと好転した一方で、建設業で▲17.4ポイント、卸・小売業で▲22.2ポイント、サービス業で▲12.5ポイント、その他の業種で▲20.0ポイントと厳しい見通しとなっている。



《 今期（令和7年度第1期）に直面している経営上の問題点（上位3位） 》

	製造業	建設業	卸・小売業	サービス業	運輸業	その他	全体
1位	人件費の増加	材料・仕入価格の上昇	材料・仕入価格の上昇	人件費の増加	従業員の確保難	材料・仕入価格の上昇	材料・仕入価格の上昇
2位	材料・仕入価格の上昇	人件費の増加 従業員の確保難	人件費の増加	材料・仕入価格の上昇	人件費の増加	人件費の増加 需要・受注の減少	人件費の増加
3位	従業員の確保難		管理経費（人件費以外）の増加	管理経費（人件費以外）の増加	材料・仕入価格の上昇		従業員の確保難



《 調査先企業の声（自由記述） 》

【製造業】

- ・ 受注納期が重なり、月別売上の変動が激しい為に資金繰りに苦労する。鉄鋼材料は底値で安定、景況感は全体的に悪い。
- ・ 製造単価（原価）が上昇。
- ・ 印刷業は、地元需要の定期発行物（広報誌、報告書、取説）で支えられてきましたが、これらが消えてしまっている状況があります。合わせて、原材料の大幅値上げに閉口しています。

【建設業】

- ・ 材料代が高くなり不安です。
- ・ 住宅の確認申請が下りずに、仕事に取り掛かれない。我々の業界では、死活問題です。このままの状態では、倒産する建設業が、沢山でだと思います。いつまで、耐える事が出来るか。
- ・ 物価上昇により、顧客の発注物件が減少する。（売上高の減少）

【卸・小売業】

- ・ 燃料価格、運送価格の高騰。
- ・ 従業員の確保がますます困難な状況にあり、このままではあと数年で事業の継続に深刻な影響が出ると思われる。
- ・ 1、2年の間で、2回も3回も値上げの物が多いので売りづらいです。
- ・ 法律改正になど、経費増が目立つようになってきた。売上単価を上げるのが難しいので経費増は困る。
- ・ 原材料費高騰がひどい！

【サービス業】

- ・ 人員不足がビジネスチャンスを逃す要因になる。更に、物価高騰による利益縮小も問題。
- ・ このまま原料、燃料が上がり続く事が予想され、これからの価格転嫁が難しい。
- ・ 金利が高いので借替できたらもっと従業員へ給与だせるのに…と思います。
- ・ 電気代が高いです。
- ・ 電気代、化粧品仕入れの高騰による収益の減少。ですが、値上げについては慎重。

【運輸業】

- ・ 春夏の気温上昇による農作物への影響が弊社にとって打撃です。燃料高騰はやむなし。
- ・ 物価上昇・燃料高騰に関しては現時点では際立って影響を受けている感はありませんが、今後も引き続き注視が必要な状況です。

【その他】

- ・ トラックや重機を使用する業種ですので、燃料費については特に気にしています。それに伴う販売単価も上昇していけば良いのですが、なかなか思うようにはいきません。（除排雪業）

本調査結果【速報版】は当会議所HPに掲載しております。

次回調査は令和7年10月の予定となります。今後ともご協力をお願いいたします。